

## ベイト剤によるハウレンソウケナガコナダニの防除効果

○本田善之<sup>1</sup>・岩本哲弥<sup>1</sup>・中田恵久<sup>2</sup>

1 山口県農林総合技術センター

<sup>2</sup>サンケイ化学(株)

近年、中山間地域における雨除けハウレンソウ産地では、ハウレンソウケナガコナダニ(以下コナダニ)が難防除害虫となっている。コナダニは土壌表面に生える藻類を増殖源とし、農薬を摂食しないと防除効果が低い。そこで、コナダニに対し摂食毒性の高い剤でベイト剤を作成し、防除効果について検討した。

2014年春期に山口市大内のセンター内において、マイクロチューブ法で薬剤試験を実施した。試験区は①カスケード乳剤区(4000倍)、②コテツフロアブル区(4000倍)、③アフーム乳剤区(2000倍)、④モベントフロアブル区(2000倍)、⑤アプロード水溶剤区(4000倍)、⑥無処理区。2cm×3cmの黒色濾紙を、乾燥酵母と水を1対10の割合で加えて浸し、所定の濃度に希釈した薬液に浸した後、コナダニ♂5♀5頭を入れて、2週間後にコナダニ卵、成若虫、幼虫を計数した。その結果、コテツフロアブル区の成幼虫数は0頭/チューブ(無処理12頭/チューブ)で、卵は認められず、最も効果が高かった(無処理63.3卵/チューブ)。

そこで、2016年秋期に山口県周南市鹿野の農家ハウスにおいて、コテツをベイト剤として散布した場合と、散布剤として散布した場合の比較試験を行った。試験区は①KI-90粒剤0.5%6kg/10a、②コテツフロアブル4000倍、試験区は1区4.0㎡(3.0×5.0m)、約260株、3連制。ツルグレン調査は、各区1カ所の表面土壌(0-3cm)を80mL採取し、24時間設置した後抽出されたコナダニ成若幼虫を実体顕微鏡下で計数した。被害度調査は、各区1列おきの5列の各10株、50株の被害程度を調査し、被害度を算出した。寄生虫数調査は、各区1列おきの5列の各2株、10株を持ち帰り、実体顕微鏡下で新芽に寄生するコナダニ成若幼虫を計数した。その結果、①KI-90粒剤0.5%6kg/10aの被害度は無処理の65.4に比べ低く、②コテツフロアブル4000倍と比べても高い防除効果が認められた。

2017年秋と2018年秋に山口県周南市鹿野の農家ハウスにおいて、ベイト剤の散布時期と散布量による効果試験を行った。試験区は①KI-90粒剤播種時3kg/10a、②KI-90粒剤播種時6kg/10a、③KI-90粒剤2葉期3kg/10a、④KI-90粒剤2葉期6kg/10a、⑤カスケード乳剤4000倍、⑥無処理。区の設定や調査方法は2016年と同様とした。その結果、④KI-90粒剤2葉期6kg/10aの被害度が2017年、2018年とも最も低く、(無処理27.1、26.2:カスケード乳剤15.8、8.3)2葉期に散布した方が防除効果が高かった。今後は、カーバムナトリウム塩液剤との体系防除についても検討したい。

Control effect of spinach on mites *Tyrophagus similis* Volgin (Acari: Acaridae) by Kotetsu bait.

yoshiyuki Honda<sup>1</sup>, Tetsuhiro Iwamoto<sup>1</sup>, Yoshihisa Nakata<sup>2</sup>

<sup>1</sup> Yamaguchi Prefectural Agriculture & Forestry General Technology Center

<sup>2</sup> SANKEI Chemical Co.Ltd.